

令和5年度 奈良県難病診療連携拠点病院 難病医療従事者研修会報告

令和5年12月2日に医療従事者を対象とした研修会をWEB配信で開催し、医師・看護師・薬剤師・保健師・作業療法士・理学療法士・言語聴覚士・社会福祉士・ケアマネジャーなど63名の多職種の方にご参加いただきました。

本研修会の開催にあたり、主催者を代表し、奈良県難病診療連携拠点病院運営検討委員会委員長、奈良県福祉医療部医療政策局健康推進課課長からの挨拶の後、奈良県難病相談支援センターより難病相談支援センターについての概要や業務内容等についての情報提供を行いました。

講演では、前年度のアンケートをもとに、希望が多かった疾患について、奈良県立医科大学附属病院脳神経内科 杉江和馬教授より「進化する神経難病の最新治療」としてパーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症（ALS）等の治療について最近の研究内容の話も交えながらご講演いただき、また、奈良県立医科大学地域医療学講座 赤井靖宏教授より「腎臓をターゲットとする指定難病 Update」として腎臓が関係する指定難病のうち、頻度が多いとされるIgA腎症や見逃されがちになるファブリー病について、病気の仕組みや診療の状況をご講演いただきました。



研修後のアンケートでは、46名の方にご回答いただきました。そのほとんどの方から満足度が高かったと回答をいただきました。その理由として、「講演内容が、具体的に解り易かった」、「最新情報を入手できて有意義であった」、「新たな傾向や今の治療状況がわかりやすかった」といった感想をいただきました。

今後も奈良県の難病医療の向上を目指し、難病医療提供体制の構築に取り組んでまいります。